

第113回 フランス革命①

1 フランスの旧制度

- ・絶対王政がつづくフランスでは、非常に不平等な身分制が存在していた。
※この制度を、旧制度、フランス語で（ ）と呼ぶ。

絶対君主	…	国王	
()	…	()	約 10 万人 (0.4%)
()	…	()	約 40 万人 (1.6%)
()	…	()	約 2450 万人 (98%)

- ・少数の第一身分と第二身分は、広大な土地とすべての重要官職をにぎっていた。
- ・また（ ）など、数々の特権を持っている特権身分であった。

<第三身分（平民）の階層>

- ①（ ）（銀行家、大商人、弁護士など有産市民）
→経済力を持っていたが、政治的な権利はなかった。
- ②（ ）（下層市民）
→職人や労働者が多く、重労働だが収入は低かった。
- ③農民（全人口の 80%以上）
→農民は国や教会からの重い税金に苦しみ、ギリギリの生活をしている。



アンシャン=レジームの風刺画



左は倒れそうな第三身分に乗る国王と特権身分、右は特権身分に押しつぶされる第三身分を風刺している。アンシャン=レジームの状態をよく表している。



サン=キュロット

サン=キュロットとは、「半ズボンをはかない者」の意味。貴族やブルジョワが半ズボンをはいていたため、下層市民をこう呼んだ。

2 アンシャン=レジームへの批判

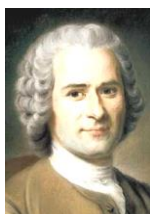
- ・アメリカ独立戦争に参加した（ ）などの影響で、自由・平等な社会を求める風潮が、フランスに浸透していた。
- ・また（ ）の影響で、絶対王政への批判が強まっていた。

- ・特権階級の中からも、アンシャン=レジームを批判するものが登場した。
→聖職者の（ ）は、『 』というパンフレットの中で、特権身分の存在を批判した。



ラ=ファイエット

出生した「両大陸の英雄」。自由主義貴族で、19歳の時にアメリカ大陸に渡り、フランス帰国後はアンシャン=レジームを批判した。



ルソー

変態のルソーは、『社会契約論』で人民主権を主張し、『人間不平等起源論』では絶対王政下の不平等なフランス社会を厳しく批判した。詳しくは第106回のプリントを見よう。



アペ=シェイエス

通称は「革命のモグラ」。フランス革命の嵐の中を、したたかに生き抜いた。フランス革命を始まらせ、終わらせた男と言われる。

3 フランスの財政難

・ルイ 14 世時代以降の戦争により、フランスの財政は非常に厳しい状態だった。
→ルイ 16 世の時代、() へ介入し、財政はさらに悪化した。

◆ () (在位 1774~1792 年)

- ・1786 年、英仏通商条約（イーデン条約）が結ばれたが、安いイギリス製品が流入したためフランスの産業は大打撃を受けた。
- ・また王妃（ ）の浪費も、民衆の反発を招いていた。



ルイ 16 世

ちょっとオタクっぽい、まがいなくいい人である。改革にも積極的だったが、もはや彼が即位した時には手遅れの状態であった。生まれた時代が悪かったな。哀れ…。



マリー=アントワネット

政略結婚でフランスに嫁いできた。母はもちろんマリア=テレジア。豪華な宮廷生活は民衆の恨みをかい、赤字夫人などと呼ばれた。興味のある人は、映画やマンガにふれてみよう。



映画『マリー=アントワネット』 マンガ『ベルサイユのばら』

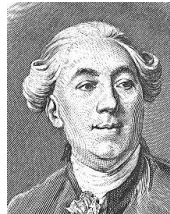


- ・ルイ 16 世は厳しい財政を再建するために、重農主義者の（ ）、スイス人銀行家の（ ）、さらにカロンヌを起用して改革を行った。
→これまで免税されてきた、特権身分（第一身分、第二身分）からの課税を試みた。
→特権身分による名士会は反発し、1789 年、1615 年以來の（ ）が開催されることになった。



財務総監テュルコー

重農主義者として知られる。第 107 回を復習すること。宮廷費を節約しようとして、マリー=アントワネットたちの大反発をくった。ギルドの廃止も計画していた。



財務総監ネッケル

スイス人。カロンヌの辞任後に再び復帰し、特権身分から税金を取ることで、財政難を解決しようとした。民衆の人気も高く、彼の罷免はフランス革命の発端のひとつとなった。



三部会での議論

超久しぶりに開かれた三部会は、特権身分と第三身分との対立により、大混乱となった。そして結果的に、これが最後の三部会となった。

4 国民議会の成立

・1789 年 5 月、ヴェルサイユ宮殿で開かれた三部会は、身分別議決法を主張する特権身分と、議員数による議決を主張する第三身分の対立で混乱が続いた。

- ・1789 年 6 月、第三身分を中心とした議員は、() を結成し、憲法制定まで解散しないことを宣言した。

※これを () という。

→ルイ 16 世はしぶしぶこれを認めたため、国民議会は憲法制定議会と名をあらためて憲法の制定にとりかかった。



ダヴィド作「テニスコートの誓い」

第三身分の議員と、それに同調した一部の特権身分の議員は、ヴェルサイユ宮殿のテニスコートに集まった。中央で右手をあげているのは、国民議会の議長を務めたバイイ、その足元において座っているのは誓いを起草したアベ=シェイエス。右側前方において両手で胸をおさえているのがロベスピエール、右端で右手を軽く上げているのがミラボー。